

死亡診断書記載上の問題点について

◆ 死因統計に用いられる原死因について ◆

原死因とは、「死亡を引き起こした、または、その一因となったすべての疾病もしくは損傷およびこれらの損傷を引き起こした事故もしくは暴力の状況」を指します。あるいは、「直接、死亡を引き起こした一連の病的事象の起因となった疾病もしくは損傷」ということもできます。

死因統計に用いられるのは、**原死因 (Underlying cause of death)** であり、直接死因 (Direct cause of death) ではありません。したがって、死に至った直接の傷病名しか死亡診断書に記載されていないと、正しい傷病名が死因統計に反映されないことになります。

例) 脳梗塞を10年前に起こし、寝たきりで嚥下障害を伴っていた人が肺炎を併発して死亡した場合

I	(ア) 直接死因	肺炎	7日
	(イ) (ア) の原因		
	(ウ) (イ) の原因		
	(エ) (ウ) の原因		
II			

これでは「元気だった方が肺炎を起こして死亡した」という状況になります。

次のように記載することによって、「脳梗塞後遺症がおおもとの死因 (原死因) である」ということを明確にすることができます。

I	(ア) 直接死因	嚥下性肺炎	7日
	(イ) (ア) の原因	脳梗塞後遺症	10年

この死亡診断書では、最下段の「脳梗塞後遺症」が原死因として選択されます。

このように、直接死因を引き起こした病態を、(イ) 欄以下に明記することが極めて重要です。

また、死因統計もまた、昨今 DPC (Diagnosis-Procedure Combination) で一般に知られるようになった、ICD-10 に基づいて分類されています。したがって、医学的に正しく、十分な詳しさをを持った傷病名を記載することが重要です。

厚生労働科学研究

「死因統計の精度向上にかかる国際疾病分類に基づく死亡診断書の記載適正化に関する研究」

(研究代表者 大井利夫社団法人日本病院会副会長) 班 2009年9月作成

◆ 死亡診断書の精度に影響する因子について ◆

次の点に注意して死亡診断書を記載していただくことで、我が国の死亡統計の精度が向上することが期待されます。

- 1) I 欄 (ア) の直接死因と**因果関係のある傷病名** (その原因となった傷病名) がある場合は、I 欄の (イ) (ウ) (エ) に明記して下さい。

例：脳梗塞 → (ア) 内頸動脈脳塞栓症 (イ) 心房細動
うっ血性心不全 → (ア) うっ血性心不全 (イ) 連合弁膜症
嚥下性肺炎 → (ア) 嚥下性肺炎 (イ) 脳梗塞後遺症

- 2) **病原体**が判っているときは必ず記載して下さい。

例：肺炎 → サイトメガロウイルス肺炎 あるいは 細菌性肺炎
肝硬変 → C型肝硬変

- 3) 腫瘍の**良性・悪性**は必ず記載して下さい。

例：膀胱腫瘍 → 三角部膀胱癌
脳腫瘍 → 側頭葉膠芽腫

- 4) 腫瘍の**細胞型**が判っているときには、できるだけ詳しく記載して下さい。

例：悪性リンパ腫 → びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫

- 5) 疾患の**部位**は正確に記載して下さい。

例：大腸癌 → 直腸癌 あるいは 上行結腸癌
脳出血 → 被殻出血

- 6) そのほか、病名は**できるだけ詳しく**記載して下さい。

例：肺炎 → 嚥下性肺炎
肝硬変 → アルコール性肝硬変
慢性閉塞性肺疾患 → 肺泡中心性肺気腫
急性冠症候群 → 急性前壁貫壁性心筋梗塞

厚生労働科学研究

「死因統計の精度向上にかかる国際疾病分類に基づく死亡診断書の記載適正化に関する研究」
(研究代表者 大井利夫社団法人日本病院会副会長) 班 2009年9月作成